



くるま

車いすバスケットボール

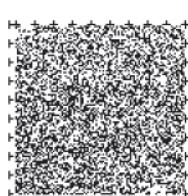
ぜんこくしょうがいしゃ
全国障害者
たいかい
スポーツ大会
パラリンピック

身体障がいのある選手が、競技用の車いすを使用して、1チーム5人(男女区分なし)でプレーします。使用するコート、リングの高さ、ボールはすべて一般のバスケットボールと同じです。



豆知識

車いす操作の技術



車いすに乗った状態ではジャンプできませんが、車いすの片輪を上げて高さを出す「ティルティング」という技術があります。巧みな車いす操作、素早いパスワークなど車いす同士の激しい攻防が魅力のスポーツです。

25

ルール

選手が車いすに乗って競技をするという原則以外は、一般的のバスケットボールに準じます。10分間の競技(クオーター)を4回行います。

トラベリング

ボールを保持したまま、車いすの車輪を3回以上こぐとトラベリングの反則になります。

一般のバスケットボールでは

ボールを保持した状態で3歩以上歩くとトラベリングの反則になります。



ボールを保持する様子

ダブルドリブル

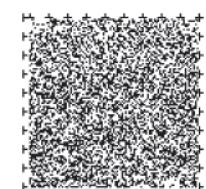
車いすバスケットボールには、ダブルドリブルのルールがありません。車輪をこぐ回数が2回以内であれば、ドリブルとボールの保持を繰り返し行っても反則なりません。

一般のバスケットボールでは

ドリブルをした後にボールを保持し、再度ドリブルをするとダブルドリブルの反則になります。



ドリブルをする様子





選手とチームの持ち点

選手には、障がいの程度に応じて、0.5点きざみで、1.0点～4.5点までの持ち点が決められており、合計は14.0点以内です。

障がいが重いほど
持ち点は小さい



1.0・1.5点



2.0・2.5点



3.0・3.5点



4.0・4.5点

たとえば

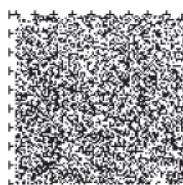


1.0 + 2.0 + 2.5 + 4.0 + 4.5

コート内でプレーする
選手の持ち点合計

1チームあたり 14.0点以内

ちょっと休憩



車いすバスケットボールは、1960年のパラリンピック第1回ローマ大会から実施されているよ。障がい者スポーツの中でも世界的に知名度、人気が高いスポーツの一つだね。日本でも歴史は長く、1964年の東京パラリンピックでも実施されたよ。



競技用車いす

車輪がハの字になっていて、急激なターンやストップ、ダッシュなどができる。

ベルトで身体を
シートにしっかりと固定



回転性能が高く、細やかな動きが可能

接触して足をケガしないためのバンパー



後ろに倒れないための
転倒防止キャスター



コートにタイヤのゴムが焦げたにおいがするほど、選手たちは車いすに乗って、激しいプレーを繰り広げます。

